

第1回環境班「ごみ処理施設見学会」報告

SV2004環境班

日時： 1月19日（木） 8：45～14：50

参加者： 27名

仙台市の環境局の所有する「ワケルくんバス」を利用し、仙台市東口からプラスチック処理工場・今泉清掃工場の見学会を企画し無事に開催されました。全体に参加者の評価も高く、いくつかの課題を改善し今後環境班の定例企画に育成したいと思います。



【概況の報告】

集合：強風の中、仙台駅東口住宅展示場前に予定通りの参加者が寒さを堪えて集合。楽天は1月入社の新入さんが参加。メロンからも2人の参加。更にバイクで付いて行くとのツワモノ参加者が1名。合計27名が参加でスタート。但し、弁当手配の要領が悪く、出発が15分程度遅れました。

バス：環境局職員の説明で、仙台市のゴミ分別レベルが全国でワースト1との評価を国から受けていることを聞かされ驚く。更に、国はこの是正を図るために年1～2回抜き打ち検査に来ている。昨年も実施された。又、危険物のゴミ出し基準が徹底されず、ゴミ回収作業中に2人の職員が大怪我をしたことも衝撃だった。中身はガラス破片と包丁。必ず表示をすることが基本。その後SV環境班班長より挨拶。仙台市作成のゴミ分別PRビデオを観賞する。

JFE環境（株）仙台プラスチックリサイクル仙台工場

元々工場見学は考慮せずに立てられた工場のため、仙台市から要望がでてから手すりや通路等を工事。また、1つ3万円もする見学者用のイヤークラスも準備するなど協力的な会社と事前説明を受けて到着。全員、ヘルメット、軍手、イヤークラスを着用。「本当は担当ではないが、仕方ないのでやります。あまり質問しないで下さいね。」の言葉とは裏腹に、その説明担当のトークは参加者の爆笑を何度か誘った。仙台市のプラゴミ専門工場で、そのキャパは一日50t。車1台当たりの量が1t。つまり50台分のプラゴミを受け入れている。中は、トラックがそのままゴミを降ろせるような、大きな体育館のよう。全コンクリート製。保管場所は最大100tまで可能。毎年そのピークは年末年始に来るそうで、今回は

80 t程度まで溜まったとのこと。ごみは、分別しやすいように、最初の大粒なコンベア一台で袋を割く工程からスタート。最上階までプラゴミをコンベアで運び、遠心分離の原理でプラゴミを「ボトル系」と「フィルム系」に分別して、手作業の分別作業ラインに送り込む。常駐7人。11人で作業。3班の2交代勤務。うち2名は仙台市の職員。ボトル系ラインに5名。フィルム系に2名。一度ご覧頂ければわかるが、彫刻ぶつ、ライター、現金まで混入してくるそうだ。特にライターは大問題。下手すると発火事故も起きうること。分別がいかにか大事か身にしみる。とにかく楽しい説明なのだが、臭いはともかく、寒さに耐えられず、早々に切り上げた。パンフレットを頂く。



仙台園芸センター

予定より早く終了したので時間つぶしで、途中の園芸センターによることになった。皆はバイクの仲間が付いてくることを心配。到着すると、ちゃんと一緒に園芸センターに着いていた。中に入るまでに強風で何度か歩みが止まる。寒い。入館しようとしてみたが有料だと解り、ほぼ全員が各仲良しグループに分かれ談笑。この間が結構仲間意識に役立った。11時30分定刻通り出発

今泉リサイクルプラザ

予定とおりに到着。すぐに昼食時間となる。ここで現地参加者が一名増えた。SV班長からこの施設の概要と、午後のスケジュールが説明される。仲良くお食事時間が経過して、リサイクルプラザに見学に行く方が出てきた。また、一人の「今日のゴミ分別はどうしましょうか。」の発言で、早々に簡易ゴミ分別ステーションが設置された、容器は蓋、中身の仕切り、本体の3分割。紙ごみ、割り箸、プラゴミ、ペットボトルに分別終了。リサイクルプラザでは、一人3冊まで自由に本がもらえるので多くの方が利用。また、家具や電気製品、エレクトーン等が見事に復元されて抽選でもらえる。この展示品をみて皆が申し込もうとしたが、抽選日当日不在は権利無しとわかり諦める。今月は23日だとのこと。毎月1回開催。譲るもの、欲しいものの掲示板があり、情報交換もされている。修理はこの職

員が担当。何か新品を買う前に一度尋ねるのをお勧めする。何せただ。引き取りすることが条件。



今泉工場見学

予定とおりに1時から工場見学がスタート。最初に担当女性の説明とビデオが流れる。ここで質問タイム。結構マニアックな質問を繰り返す方がいたが、その手の仕事が専門だったことが後でわかる。皆感心していた。設備寿命は30年、15年ごとに大改修。今泉も後数年でリタイア。新たにゴミ焼却設備の建設が始まるとのこと。担当女性「皆さんでゴミを減らせばそのサイクルも長くなります。」との回答。深刻に皆受け止める。他何点か質疑応答。15分後工場内に移動。ここでバイク参加の方が途中で退場された。最上階のゴミ焼却コントロールルームに行く。一日400t=200台分の回収車のゴミを受け入れている今泉。仙台市はこのような設備を3箇所稼働させている。一日仙台市だけで約1000tのゴミである。ゴミの量は最大ピーク時に比べると減少傾向にあるが、昭和44年が一日一人612gだったのが平成15年は1203g、目標は昭和63年の1098gとのこと。そのゴミが集まるゴミピットと呼ばれる場所はそのルームの眼下に見える。まさに映画のワンシーンでも見るかの如く、ガラス張りの部屋から巨大なコンクリートの壺が見えるのである。しかもガラス張りは足元の一部にも在り、高所恐怖症の方には耐えられない景色である。一掴み3tもの巨大ショベルが目の前を移動する光景。葛岡ではこのショベルが8tクラスと言う。

たしか、リサイクルプラザも葛岡は規模が大きいとのこと。次回のコースに考えても良いかも。

その後、施設全体のコントロールルームをガラス越しに見る。見学者の一人が「ここでは何人働いているのですか。」の質問。



担当女性答えて曰く「64名です。うち63名が男性です」の答えに、一同一瞬考えて納得。紅一点に案内して頂いていたのですね。展示室前にて集合写真。

バス帰路

職員と参加者の一人が30年来の付き合いとの話題が出て、その方の意見でフルス

夕を見て帰ろうとなった。寒くて元気の無い人もいたが、おおむね笑顔でこの見学を終えた。バスを降りると、先ほどの仲良しグループごとに今後のスケジュールを話あっておりました。



成果

環境班に2名の女性が加入して頂きました。参加者が喜んでいました。楽天の新担当女性と顔合わせが出来ました。お弁当が非常においしかった。見学ツアーは恒例イベントになりそうです。20名以上であれば可能。

効果

ゴミの具体的な量の把握。ゴミ焼却施設の状況=30年ごとにその規模は大きくなるばかり。それを少しでも減らすのは個人の分別作業にかかっている事実。リサイクルするにもポイントは分別。

この事実をPRして、具体的な数字の改善に繋げて行こう。

反省

事前打ち合わせが不足していた。連絡体制の不備。時間割りの不備。次回はずいぶん改善しよりよいものにしたいと思います。

